

《薬局サーベイランスコメント》

『第 51 週のインフルエンザの推定患者数は約 38 万人と増加、12 月としては比較的大きな流行となった』

2017 年 12 月 26 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

2017 年第 51 週（12 月 18～24 日）のインフルエンザの推定患者数は、薬局サーベイランス (<http://prescription.orca.med.or.jp/kanijyasukei/index.html>) によると 384,849 であり、前週（第 50 週）の値（218,886）の約 1.8 倍の増加となりました。また、第 42 週以降 10 週間連続して増加が続いています（図 1）。休日明けの月曜日（12 月 25 日）の推定患者数は 139,273 と今シーズンの 1 日当りの最多数を大幅に更新しましたが、第 52 週からは冬期休暇の時期に入るため、推定患者数の増加は鈍化し、横ばい傾向となることが予想されます。

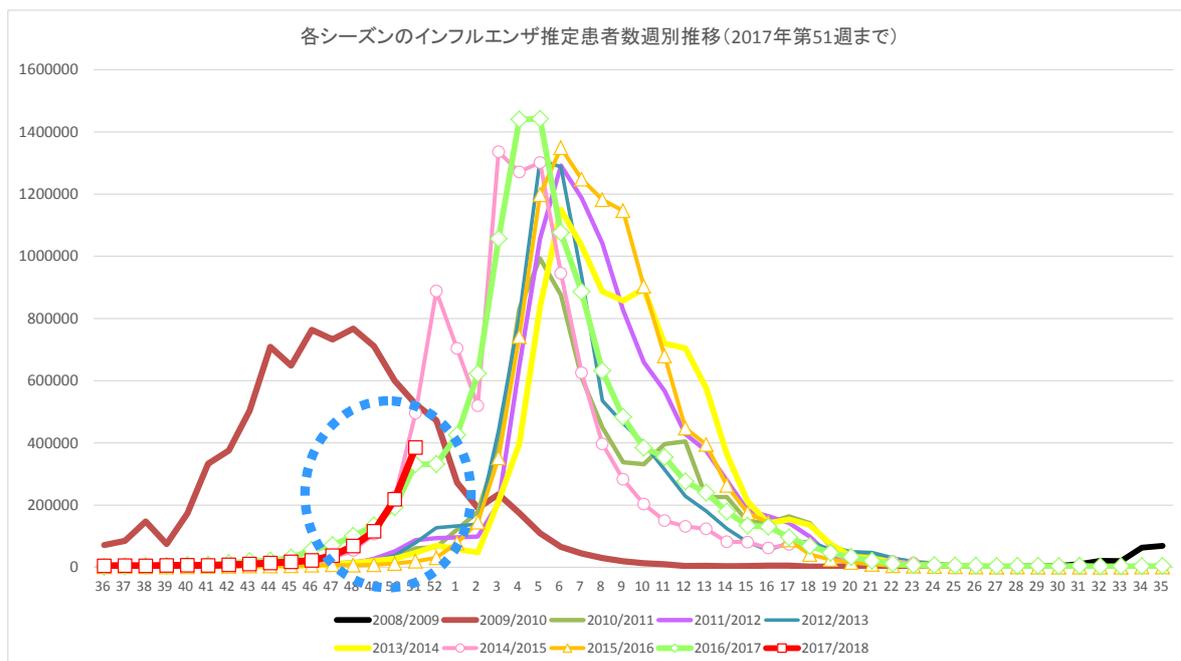


図 1. 過去 7 シーズンと今シーズン（2017/2018 年シーズン）の第 36～第 51 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2017 年第 51 週の推定患者数= 384,849）

各都道府県別の第 51 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると広島県、大分県、岡山県、北海道、熊本県、福井県、宮崎県、長野県、徳島県、静岡県、佐賀県の順となっており、石川県、山梨県、和歌山県を除く 44 都道府県で前週の値よりも増

加がみられています。

今シーズン（2017/2018年シーズン）の2017年第36週から第51週までの累積の推定患者数は931,591であり、2017年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は0.74%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳（4.44%）、10～14歳（2.75%）、0～4歳（2.03%）、15～19歳（0.81%）、30～39歳（0.65%）、40～49歳（0.3560%）、20～29歳（0.43%）の順となっていて、14歳以下が流行の中心である状態が続いています（図2）。

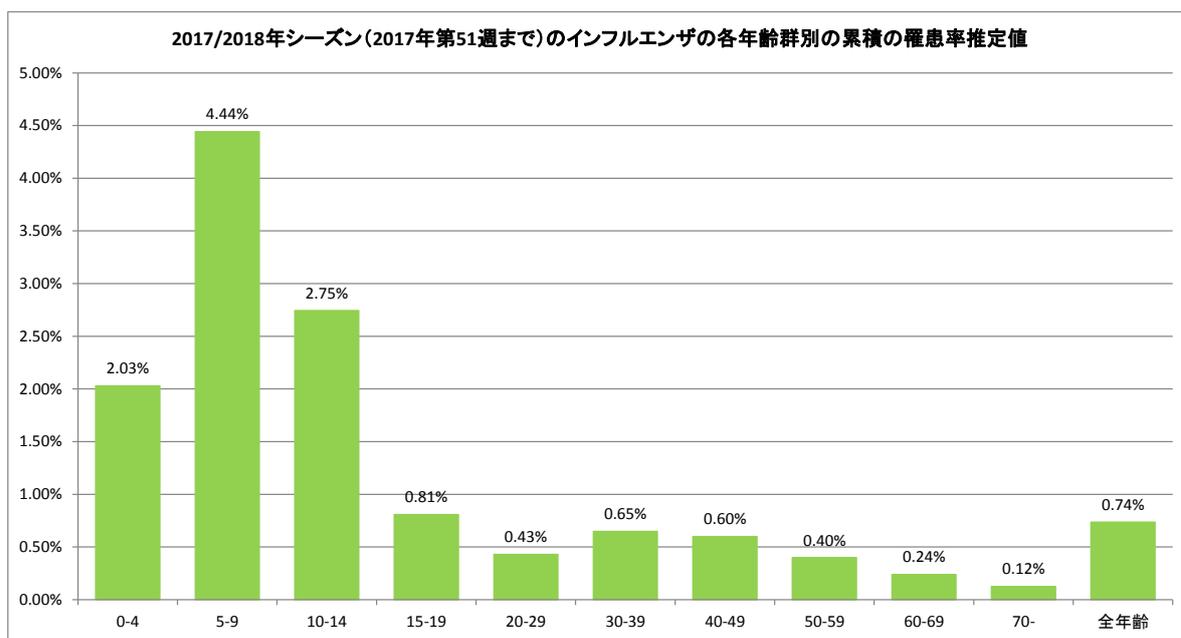


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2017年第36～2017年第51週、累積推定患者数= 931,591)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（675検体解析）は、A/H1pdm 50.2%、B型 25.3%、A/H3（A香港）亜型が24.4%の順となっていて、A/H1pdmが最多を占めていることに変わりはなく、またB型では山形系統が大半を占めています。

第51週のインフルエンザの推定患者数は約38万人と12月としては比較的大きな流行となりました。今後インフルエンザの流行は横ばい傾向となるものの、冬季休暇明けの2018年第2週以降は再び患者数は急増し、本格的な流行時期に入っていくことが予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生状況には注意が必要です。